

履修における注意事項（平成24年度以降入学者夜間主コース）

履修上の重要な注意点は学生便覧に掲載されています。また、各年度に開講する授業の詳細な内容はシラバスに掲載されています。原則として入学年次の学生便覧に記載されている規則が卒業まで適用されますので、入学時に配付された学生便覧やその他の資料を卒業まで大切に保管しておいてください。また、学生便覧の記載事項に変更が生じた場合は、学務係前ならびにNU-Web掲示板を通して通知しますので、毎日確認してください。

- ★ 昼間コースに開設される専門教育科目（演習を除く）を履修し、30単位を限度として最低修得単位に含めることができます（経済学部規程第10条参照）。ただし、科目区分の取扱いについては学生便覧やシラバス、掲示による通知に十分注意してください。
- ★ 昼間コースの科目で科目名に（A）、（B）の表示がある場合は、登録できるクラスが決まっており、卒業するまで固定されますので注意してください。
（A）学生番号の下3桁が180番未満の昼間コース学生
（B）学生番号の下3桁が180番以上の昼間コース学生、
夜間主コース学生、編入学生
- ★ 夜間主コースは1日に開講される科目数が2校時に制限されます。履修計画を立てるときには科目区分ごとの最低修得単位数に注意し、できるだけすべての校時に履修する授業科目を登録することを勧めます。
- ★ 「履修登録」は指定された期限までに、Nu-Webによって必ず行ってください。その際、画面上で登録内容に間違いがないか必ず確認してください。履修登録が正しく行われていなければ、授業や試験を受けても原則として単位は認定されません。
- ★ 履修する授業科目およびゼミ（演習Ⅰ）の選択は、自分の学習上の関心に従って行いましょう。「先輩がいる、勧められた」あるいは「友人が選択する」などの安易な理由で選択すると、学習意欲がわかずに登校しなくなってしまうことがあります。
- ★ すべての授業科目が毎年開講されるわけではなく、隔年（1年おき）開講科目、数年に一度開講される科目があります。たとえば隔年開講科目の単位を修得できなければ、同一科目を履修するには1年間待たなければなりません。
- ★ 授業科目の多くはその内容が基本的に昼間コースで開講されているものと同じです。また試験および成績に関しても、夜間主コースであるという理由で特別の配慮がなされることは原則としてありません。一度欠席してしまうと続けて欠席してしまうことがあります。授業には必ず出席し、しっかりと講義ノートを作成し、また十分に予習・復習を行うよう努力することが大切です。
- ★ 教員に質問したい場合などは、授業時間中や授業終了直後、あるいはシラバスに記載されたオフィスアワーを利用するか、各教員がシラバス等に指定する方法によって直接連絡をとってください。
- ★ 成績は、年2回、前期・後期の成績開示日以降にNU-Webで直接確認してください。（学生便覧「考査及び成績について」のページを参照してください。）なお、前期、後期の成績確定後に、学生の保証人に成績通知を行います。また、単位修得状況が不振な学生に対しては前期・後期のはじめに履修指導を行い、これに参加しない学生は保証人に通知します。
- ★ 大学から学生に対する通知・連絡などは学務係前およびNU-Web上の掲示板を通じて行われます。通学時に必ず1日1度は掲示板を確認するよう心掛けてください。また、経済学部ホームページ（在学生の皆様へ）にも基本的な情報を掲載していますので、有効に利用してください。（<http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/>）

卒業延期（留年）を防ぐために

よくある留年パターン

パターン1: 授業に出席しない、単位を修得できない。 → 1年次のうちに登校しなくなる。

教養教育では、学部の違いを超えて、これから専攻する分野の学問体系における位置を正確に理解するとともに、幅広くかつ深い教養を身につけます。また1年次から開始される教養教育の学部モジュール科目および専門教育の学部基礎科目は、2年次以降に履修するより専門的な科目の基礎をなす科目であり、高校までの学習と大学での学習の橋渡しをします。継続的に出席しなければ講義についていくことはできません。

また、過度の、とくに深夜の時間帯の勤務やアルバイトを行うと、履修上困難をきたすことがあるので極力避けてください。

パターン2: 教養教育科目の最低修得単位を修得できない。 → 3年次以降登校しなくなる。

夜間主コースの授業は1日2校時しか開講されないため、履修可能な授業科目数が制限されます。教養教育科目は配置された年次に、すべて確実に修得するようにしましょう。

パターン3: 演習履修要件を満たせない。 → 1年間以上の卒業延期（留年）が確定する。

演習Ⅰは卒業するまでに（3年次あるいは4年次に）単位修得すればよい科目ですが、3年次終わりまでに演習（ゼミ）履修要件を満たすことができず演習Ⅰを履修できないと、4年間で卒業はできないことになります。

パターン4: 考査（試験やレポート）での不正行為

試験やレポートでの不正行為は、当該学期の授業科目の単位が与えられないほか、訓告、停学、退学等の処分が行われることがあります。

夜間主コースの履修体系および注意事項

平成24年度以降夜間主コース入学者用

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業科目区分**								
教養教育科目(32単位) ^{*1}	月から金	火から木	月、木、金	月、金				
学部基礎科目(8単位) ^{*2}		月、金	火、水					
コース基礎科目(20単位) ^{*3}		月、金		月から金				
応用科目(36単位) ^{*4}					月から金	月から金	月から金	月から金
演習(4単位)					演習Ⅰ(月 or 金)		演習Ⅱ(金)	
自由科目(教養教育科目・ 専門教育科目)(24単位) ^{*5}	教養教育科目・専門教育科目から自由に選択して履修する授業科目							
履修上の注意				演習Ⅰ(必修)・演習Ⅱ(選択)の履修(原則として同一の指導教員の下に履修する) ^{*6} 演習Ⅰの履修要件 ⇒ 教養教育科目修得単位26単位以上(外国語科目4単位以上を含む) ⇒ 専門教育科目修得単位14単位以上 演習Ⅱの着手要件 ⇒ 演習Ⅱを履修するためには演習Ⅰの単位を修得していなければならない				

** : かつこ内は最低修得単位数。なお昼間コースに開設されている学部モジュール科目及び専門教育科目(演習を除く)を30単位を限度として最低修得単位数に含めることができる(詳細は経済学部規程第10条を参照)。

*1 : 1科目2単位

*2 : 1科目4単位

*3 : 1科目4単位

*4 : 1科目2 or 4単位

*5 : 1科目2 or 4単位

*6 : 演習Ⅱの単位認定は指定期間内に提出された卒業論文によって行う